もくじ

オルガニートを生業（なりわい）するきっかけ･･･2
オルガニートでリハビリ･･･5
いろいろな施設での体験･･･9
オルガニートの演奏･･･12
「音のキャンバス」のおかげでオルガニート編曲家に･･･14
お客様の声･･･17
編曲は楽しい･･･21
編曲は難しい？･･･23
共演者との出会い、合奏は楽しい･･･25
コンサートでのネタ･･･28
オルガニートのワークショップ
　～楽譜が読めなくてもできる曲カード作り体験～･･･32
ワークショップの悩み･･･35
子供はすごい！･･･37
曲カード年賀状･･･39
極短曲カード･･･41
小さい音の効能･･･42
鳥の声を聴こう！･･･44
オルガニート愛好会･･･46

＜オルガニートを生業（なりわい）にするきっかけ＞

趣味に毛が生えた程度にオルガニートの編曲を楽しんでいた頃、住んでいた地域で音楽ボランティア団体に参加していました。いろいろな施設や学校から依頼を受けて演奏者を派遣したり、自主企画のコンサートをする団体です。アマチュアですがバイオリンが少々弾けるので、演奏者として登録していました。

高齢者施設に弦楽四重奏のコンサートに行ったとき、ほんの軽い気持ちで前座でオルガニートを演奏させてもらいました。これが初めての人前での演奏です。

予想外に喜ばれました。皆さん口々に「いい音ねぇ」と言ってくださいました。遊びに来ていた小学生がオルガニートに食いついてきたので演奏してもらうと、とても楽しそうに何曲も演奏してくれました。

こんなに喜ばれるのだったらこれからもあちこちで演奏して、もっとオルガニートを知ってもらいたい、楽しんでもらいたいと初めて思いました。

知人を通して病院からオルガニートの演奏依頼が来ました。リハビリにオルガニートを使っている作業療法士さんからの依頼です。大きなリハビリ室に患者さんに集まってもらってのコンサートと、病室を回って演奏をしました。

皆さんのよく知っている童謡などを演奏すると「一緒に歌ってください」と言わなくても自然に歌ってくれます。スタッフのかたが「〇〇さんが歌ってる！！」と、とても驚いていました。普段はまったくしゃべらない患者さんが、オルガニートの演奏に合わせて大きく口をパクパクしていたのです。

はて、これはオルガニートで奏でられる音楽の効果なのか、他の楽器でもいいのか、スピーカーから流れる再生音楽でもいいのかわかりませんが、オルガニートに何か力があるようです。

コンサートでは患者さんにも演奏してもらいました。オルガニートの演奏はハンドルを回すだけですから。１曲演奏し終わると他の患者さんやスタッフから拍手が起こり、演奏した人はとても嬉しそうでした。

患者さんが演奏した時にも周りの患者さんは歌います。たどたどしい演奏を周りの皆さんが一生懸命聴いて、合わせて歌うのです。仲間の演奏を応援し、見守っていると感じました。

病室での演奏の前にはリハビリの先生から、患者さんは神経の病気で体や顔を動かすことができません。無表情だったり反応がわかりにくいと思います、との情報をいただいていました。でもちゃんと演奏が届いているのがわかりました。掛け布団の上に組んだままの両手の人差し指だけで拍手をしてくれた人がいたのは印象に残っています。

コンサートの前に、寝たきりの患者さんの病室に案内されました。人工呼吸器を付けたお子さんのためにお母さんがオルガニートを演奏していました。お子さんの好きな曲だそうです。そのとき、急に人工呼吸器からアラームのような音が鳴りました。驚いて先生に尋ねると、これは人工呼吸から自発呼吸に変わったサイン。好きな曲を聴くとこのようなびっくり反応が起きることがあるそうです。

お母さんはお子さんの好きな曲を選んで、曲カードに穴をあけて枕もとで演奏して聴かせるのだそうです。お子さんにはそれが聴こえていて、しゃべれないけれど反応を示します。

音楽を聴かせる方法はいろいろありますが、母親にとっては自分の手で曲カードに穴をあけて、自分の手でハンドルを回して演奏することに大きな意味があるのでしょう。そこに親子の密なコミュニケーションが生まれ、母親にとってもお子さんにとっても癒しになっているのでしょう。

楽器が上手な人は生演奏を聴かせることができます。オルガニートは楽器ができなくても素敵に音楽を奏でられることに価値がありそうです。

この体験がきっかけで、ちゃんとオルガニートを仕事にして、この素晴らしい楽器の魅力、可能性を伝える人になろうと決意しました。

後に、この病院ではオルガニートのボランティアグループができ、定期的に患者さんの枕もとで演奏するようになりました。

＜オルガニートでリハビリ＞

リハビリの先生から聞いた話です。神経の病気やケガで手に麻痺がある患者さんに行っている、オルガニートを使ったリハビリについてです。

なめらかにオルガニートのハンドルを回して、なめらかな演奏ができるように練習するのがリハビリ。また曲カードの穴位置の印どおりに正確に穴をあけるリハビリ。

穴をすべてあけ終わると、確認のために演奏します。すべての音が鳴れば素敵な音楽が流れます。それを周りでリハビリしている患者さんも聴いていて、演奏が終わると拍手がわき起こります。一生懸命穴あけをして演奏したご褒美はきれいな音色の音楽と拍手、２度嬉しいご褒美があり、リハビリの達成感につながるそうです。

もし穴の位置がずれて音が鳴らないときは、正しい位置に上から穴をあければＯＫ。穴がすごくずれて隣の音が鳴ってしまったときは、曲カードの裏からテープを貼って穴を塞いで正しい位置にあけなおせばＯＫ。簡単に修正できて失敗経験をさせないことはリハビリにとって重要なのだそうです。

入院中の患者さんが病院内でオルガニートのコンサートをしました。患者さんが演奏して患者さんが聴くコンサートです。突然、一人の子供が「回させて！」と言って出てきて、 飛び入りで演奏をしてくれたそうです。

リハビリの先生はオルガニートのことを「演奏する人と聴く人がすぐに交代できる楽器」と言っていました。

その先生がオルガニートのリハビリについて 20 年ほど前に、山梨県清里にある萌木の村のオルゴール博物館ホール・オブ・ホールズの企画展のために書いた文章を紹介します。

～～～

難病とオルガニート

数年前（2026 年時点では約 20 年前）から私は、神経難病専門病院でのリハビリテーションに従事しています。機能の維持や回復を目指して手作業を行う作業療法に励む患者さんのなかに、半身不随になった元保育士さんがいました。彼女は子供たちに毎日オルガンを弾いてあげていたとのことで、楽器が弾けなくなったことをとても悔やんでいました。そこで、オルガニートを紹介すると、「これなら私にも演奏できる！」と元気にカード作りに励むようになり、表情も明るくなりました。

他にも何人かがオルガニートに夢中になって元気になっていきました。中には、片手だけで上手に穴をあける道具を工夫し、他の人のためにカードだけを専門に作ることを自身のリハビリにしてくださった方もいらっしゃいます。身体が除々に固くなっていく病気（パーキンソン病）のその方は、２週間の練習でハンドル回しのぎこちなさを克服し、他の患者さんを大勢集めてミニコンサートを開いた方もおります。

また、別な方は知的な問題からか、条件反射的にハンドルを淡々と回し続けるだけでしたが、次第に曲の始めと終わりを理解され、曲らしく演奏できるようになり、奥様が「お父さんでもできることがあった」と感激なさっておりました。そして退院後も、自宅近くの施設に通い演奏を続けていらっしゃいます。

進行性で命に関わる難病のとある方は、しゃべることも呼吸することも困難になり、表情さえも分からなくなってしまったのですが、その方の好きな曲を家族がやさしく弾くと、それを聴いている間だけ穏やかになれ落ち着くことができたのです。亡くなる前日まで聴いていらっしゃいました。

事故で脳にダメージを受けたある方は、反応が全くと言っていいほど

ないように見えるのですが、特定の曲で心拍数が上がり、また別な曲で下がるのです。

終わりに

ある進行性難病の患者さんは、何回もホールオブホールズを訪れて元気をもらって闘病生活を送っています。ご自宅では、萌木の村で買ったローズの香りと、アヴェマリアとラルゴのオルガニートに囲まれて生活しています。目をつむると心に浮かぶ、ここでオルガネッタⅡ型のハンドルを回した体験やヴェルデⅣ型の前で感動の涙を流したこと、などに支えられて今日を生きています。

オルゴールや自動演奏楽器そのものに治療的効果があるかどうかではなく、実際の話としてここにご紹介させていただいたようなことがあるのです。ということを知っていただければ幸いです。

～～～

＜いろいろな施設での体験＞

コンサートや体験会の依頼をいただき、いろいろな施設に行きました。子育て支援施設、幼稚園、学校、病院、高齢者施設、カフェ、博物館など。どこへ行っても「いい音ねぇ」と言われ、喜ばれます。

「マタニティコンサート」と題して、妊婦さんや赤ちゃんを対象としたコンサート。インターネットで胎児と音楽について調べると、耳はかなり早い時期から聞こえている。音楽はいろいろなジャンル、楽器、テンポ、音域の曲を聴かせるといいが、何よりお母さんがリラックスできる曲を聴かせるのが一番と書いてあり、受け売りトークをしました。しゃべりが長いと泣き出す赤ちゃんもいましたが、演奏しているときはとても静かに聴いてくれました。

子育て支援施設でのコンサートでは、最年少のお客様は生後２か月の赤ちゃん。絨毯の敷いてある大広間で、お母さんの横に寝ている赤ちゃんがたくさんいました。やはりトークをしているとぐずってくるのでお話は短めに。演奏を始めると急にこちらに視線が向き、集中して聴いてくれました。お部屋の後ろの方では音楽に合わせて楽しそうに踊っているお子さんもいました。赤ちゃんはオルガニートを聴いてどう思っていたのか、感想を聞いてみたいところでしたが・・・

あちこちの保育園や幼稚園に演奏に行きました。「オルガニートは音が小さいので、よ～く聴いてくださいね」と言って始めると、子供たちはとてもお行儀よく聴いてくれます。事前に先生に人気のある曲、いつも歌っている歌をリサーチして選曲していきます。「知っている歌だったら歌ってもいいですよ。でも歌う時は大きな声で歌うとオルガニートの音が聴こえなくなるので、小さな声にしてね。」と言うと、本当に小さな声で歌ってくれるのです。

コンサートでは、休憩の時や終わってから演奏体験の時間を設けることが多いです。

子供向けのコンサートのときは、長蛇の列ができます。ゆっくり一つ一つの音を確かめるように回す子、できる限り速く回すことにチャレンジする子。私の隣にずっといて、お手伝いをしてくれる子がいて楽ちんだったこともあります。

高齢者施設では、季節の童謡や懐メロなど馴染み深い曲を演奏すると、皆さんどんどん一緒に歌ってくれます。認知症で普段ほとんどしゃべらないかたが大きい声で歌い始めて、スタッフがびっくりしたこともあります。

懐メロを演奏するときには曲紹介で、その曲の作詞作曲の背景や、ヒットした年に起こった出来事を調べていってお話すると「ほー」とか「あー」とかの声が上がります。コンサートが終わってから直接、曲にまつわる思い出をお話ししに来てくださるかたもいました。

ちなみに、調べた内容は曲カードにメモしておいて、コンサートの時はそれを見ながらしゃべります。曲カードは“カンペ”にもなりますね。

小児病院にオルガニート仲間と二人で、「手回しオルゴールで遊ぼう」と題して曲カード作り体験・演奏体験会をしました。ガウンと帽子を着用して、石鹸で手を洗って消毒して病棟に入ります。

５歳くらいの子だったでしょうか、オルガニートを演奏してもらったとき、看護婦さんが「〇〇ちゃんが嬉しそうに笑ってる！お母さんに教えてあげなきゃ！」と言って慌ててスマホで動画を撮っていました。普段はほとんど笑わない子だったようです。

小さい子が多い中で、高校生くらいの女の子が一人いました。演奏体験や曲カードの穴あけ体験を勧めましたが、初めはあまり乗り気ではありません。でも、穴あけ体験の曲の中に好きな曲を見つけたらしく、穴をあけ始め、完成して演奏。あまり表情は変えませんでしたが、何回も繰り返し演奏していました。

視覚障害者施設でのコンサート。オルガニートと曲カードを皆様に触ってもらいながら説明。もちろん演奏体験も。ご自分で曲カードをオルガニート本体に差し込んでもらい、ハンドルを回せば音が鳴ります。簡単にきれいな音楽を奏でられるので、とても喜んでいました。

皆さんは木製の大きな作業用机の回りに座っていました。そこで、試しに机の真ん中あたりにオルガニートを置いて演奏、皆さんは机に耳を当てて聴きました。音が机に伝わり、とても大きくきれいな響きが聴けて大変盛り上がりました。

その後も何度か視覚障害者の集まりで演奏しました。演奏体験用の曲カードには曲名を点字で打ちました。点字が読めないかたもいると知り、曲名を太いマジックで大きく書きました。これがなかなか重宝して、どこの演奏体験会でも誰でもパッと見てすぐに曲名がわかるようになりました。

＜オルガニートの演奏＞

「オルガニートは誰にでも簡単に演奏できます」と言われても、皆さんは「そんなことはないでしょ」思いますよね。はい、少しだけコツがあります。力を抜いてハンドルを回す、これができれば自由自在に演奏できるようになります。１つ目のコツです。

「同じ速さでハンドルを回すのが難しいでしょ」とよく言われます。はい、同じ速さで回し続けるのは難しいです。でも同じ速さでなくていいのです。他の楽器の演奏でも歌でも、正確に同じ速さ（テンポ）ということはほとんどありません。少し揺らいでいたほうが心地良く聴こえると思います。

演奏している曲を頭の中で心を込めて歌って、そのテンポで音が出てくるようにハンドルを回す速さを調節すれば、きっと美しい演奏ができるでしょう。これが２つ目のコツです。

楽器や歌の経験の長いかたがオルガニートを演奏すると、リズムを自分で作ろうとして、ぎくしゃくしてしまうことがあります。オルガニートの曲カードはほとんどの場合、一定の速さで回せば一定のテンポで曲が流れるようにできています。リズムではなく曲のテンポを意識することが重要です。

コンサートに呼ばれたときには、たくさんある曲カードの中から選曲して持っていきます。失敗しがちなのは、久しぶりに演奏する曲のとき。どんな速さで回し始めればよかったか、曲の始まり方・終わり方がどんなだったか、伴奏がどんなだったかを思い出せないまま演奏したときです。変な速さで始めてしまったり、まだ終わりでもないのにゆっくりしてしまったり、少し残念な演奏をしてしまうことがあります。

久しぶりの曲はちゃんと１回は事前に試し演奏をして、ハンドルを回す速さ・曲の構成などを把握しておかないといけませんね。逆に練習が１曲１回でいいのはとてもありがたいです。

オルガニートの最大の魅力・強みは なんと言っても“簡単に演奏できる” こと。私もその恩恵を受けている一人です。

少々バイオリンが弾けるので人前で演奏する羽目になってしまうことがありますが、とてもストレスなのです。オーケストラなど大勢で一緒に弾くのはいいのですが、一人とか少人数で弾くのは極力避けたい。たくさん練習しないと上手に弾けないですし、いや練習しても上手に弾けないし、そもそも練習嫌いですし、本番では緊張して思うように弾けないし、楽しく弾けることなど稀です。

その点、オルガニートは１曲１回練習すればＯＫ。初めての曲はもう少し練習して流れをつかんだりしますが、それでも３回くらい。気にするのは回す速さだけですから本番で緊張することはほぼありません。練習嫌いな私にとって、この上なく素晴らしい楽器です。
お客さんの表情を見る余裕もあります。ずっとニコニコして聴いていらっしゃるかたと目が合って微笑み合うこともあり、とても楽しいです。

私のホームページでは、敢えて「コンサート承ります」という案内を記載していません。なぜなら、誰でもオルガニートのコンサートはできるからです。実際、全国各地に大小様々なコンサートをやっているかたがいます。もちろん、コンサート依頼をいただくのは嬉しいですし、どこへでも行きます！

コンサートでなくても、誰かのために演奏している人もたくさんいます。自分のために演奏している人もいます。

＜「音のキャンバス」のおかげでオルガニート編曲家に＞

オルガニートを広めていきたいと思い最初に手掛けたのは、たくさんの曲を編曲して曲カードを必要としているかたに届けること。オルガニートの魅力の一つは、１台でたくさんの曲が聴けることです。オルガニートを持っていてもたくさんの曲が聴けなければ宝の持ち腐れ。たくさんの曲を聴くには、既存の曲をオルガニートで演奏できるように音を加えたり間引いたり編曲して、曲カードを作らなければなりません。

編曲するためになくてはならないのが『音のキャンバス』、パソコン用のオルガニート専用編曲支援ソフトです。2001年に発売されました。(現在はフリーソフトになっています）開発者は以前からの知り合いで、依頼を受けて発売前の監修（音楽的な表記に間違いがないか、使い勝手を確認する作業）にたずさわり、サンプル曲を数曲提供しました。

それまでは、曲カードを作るには縦横に線が引かれた「作曲用カード」に一音一音印を付けて穴をあけていました。印を間違えて付けてしまうことも多く、けっこう手間がかかる作業です。それに、どんな曲に仕上がるかは曲カードが完成して演奏するまで分かりません。

音のキャンバスを使ってみると、なんて手っ取り早く曲カードを作れるのでしょう!! オルガニートにとっての革命と言っていい!!
音をパソコンに打ち込み、パソコン上で試聴できるのです。編曲しながら音を打ち込んで試聴して、「これで良し！」と思ったらプリンタで印刷して、印どおりに切って穴をあければ曲カードが完成。一気に夢中になりました。

音のキャンバスが登場して、編曲や曲カードを作る手間が少なくなったのはもちろんのこと、保存しておいた曲データを読み込んで印刷すれば何

枚でも同じ曲カードを作れます。欲しいかたの手元に届けられるようになりました。

音のキャンバスがなければ、オルガニートも私も全く違う道を歩んでいたでしょう。もしかしたら他にもそういうかたがいるかもしれません。本当に感謝しかありません。おっとその前に、オルガニートの開発者や製造・販売している皆様にも、素晴らしい楽器をありがとうございます！

2004年にホームページを作り、音のキャンバス用の曲データを試聴したりダウンロードできるようにしました。音のキャンバスとプリンタを持っていれば、曲データをダウンロードし、厚紙に印刷して曲カードを作ることができます。自分で編曲ができなくても曲カードを増やせるようにしました。

しばらくして、自分で曲カードを作るのは大変なので売って欲しいという要望をいただき、曲カードの販売を始めました。

オルガニートの紹介になるかと思い、自主製作のＣＤも発売しました。

音のキャンバスの機能で気に入っているのが、“背景画”が印刷できること。曲カードを印刷するとき、穴位置の印と同時に好きなイラストを連続柄として印刷できます。いつも曲の雰囲気に合ったイラストを印刷しています。お客様からも好評です。

自分用の曲カードにも印刷しています。背景画を印刷しないほうがインク代を節約できるので無地にしていたこともありますが、コンサートで演奏する時にイマイチ気分が乗りません。背景画があったほうがちょっと楽しいのです。更に、曲カードを探すときには曲名を見なくても絵柄で探せるので便利です。

曲カードの販売を始めてから20年以上経ちました。最初は編曲しやすい童謡や外国民謡から作っていき、現在では販売している曲数は800曲を超え

ました。誰にどんな曲が刺さるかわかりませんから、とにかく手あたり次第、オルガニートでできそうな曲はどんどん編曲し、販売リストに掲載していきました。

お客様から、編曲依頼をいただくこともあります。私の知らなかった素敵な曲に出会うことも少なくありません。

ご年配のご夫婦から、二人が出会った時の思い出の曲とか、ご高齢のお父様が若い頃によく歌っていた曲など、エピソードを添えてリクエストいただくこともあります。

ご自分で作曲したメロディだけの楽譜を送ってきたかたもいました。伴奏は適当に付けて欲しいということで、作ったことがあります。

歌の伴奏に使いたいからと、前奏と２番・３番を追加して欲しい、歌いやすい音域にするために調を変えて欲しい、メロディを抜いて欲しいなど、細かいご要望にもできる限りお応えするようにしています。

曲カードを提供することで皆様のオルガニート活動の後方支援になれたら。皆様がいろいろな場所で演奏しオルガニートをたくさんのかたに知ってもらい、輪が広がっていったら本望です。

＜お客様の声＞

主に曲カードを購入してくださったお客様から、お礼と一緒に寄せられた声を紹介します。

～～～

うな沈黙が広がりました。演奏後の皆さまの表情もおだやかなものでした。これを受けて、オルガニートを活用した音楽活動の幅を広げたいと思った次第です。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

父が急逝した矢先のオルガニートとの出会いでした。本当にいきなり逝ってしまったので、葬儀後もぽかーんとして、じんじんと悲しくて寂しくて、どうしようかなぁと思っていた私の心に、生きた音のひと粒ひと粒が染み渡るようです。優しく、あったかくて、真っ直ぐに音の粒が染みて響いて、力をもらっている感じがします。おかげでしぼんでいた心はふっくらと戻り、力も増したようです。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

我が子は、持病から聴覚過敏だったり身体が不自由なのですが、オルガニートに出会った瞬間から音色に癒されてしまって、うっとりと楽しそうです。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

オルガニート、25 歳の重度知的障害の娘に毎日聞かせています。というか、本人が強く希望するので。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

息子が急に耳を悪くし、何か気分転換になるものはないかと思っていた時にオルガニートに出会いました。息子が音を鳴らして素敵な音色に気分がいいと言うのでうれしくなりました。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

私は音楽療法を軸とした音楽教室を主催しております。オルゴールの音色はこれまでも好きだったのですが、今回入手したオルゴールは別格、響きの奥深さが違って包み込まれるようです。

昨日も重度自閉症の女の子が、普段は大きな声を出し続けることが多い子なのですが、無言でクルクル回しながら何度も何度も耳を傾けていました。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

焚火を囲むワークショップなどで、里山の夜空の下、クルクル季節に合わせて、音楽を奏でさせていただいています。焚火が包む穏やかな空気の中、さらに癒しを育む音色となり、とても好評です。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

蔵のカフェで演奏会をしました。お子様がたくさん来てくれて、みんな目をキラキラさせながら聴いてくれて感動で涙が出てしまいました！

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

私たちは今巷に流れる色々な曲に胸ときめき、また、過去に流行った歌に振り返り、やがてそのほとんどが色あせるように消えてゆくものと感じます。

オルガニートの金属の１音は心に送られる生まれたての響き。それらが繋がってさまざまな曲となって流れてゆく。紙に小さなホールを開けてゆく、ひとつ一つの作業も楽しい時間となりますね。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

紙芝居の BGM を頼まれて演奏しに行ったときのこと。開演時間の前にも BGM でオルガニートを鳴らしていました。興味を持たれたかたがいたので、演奏体験をしていただきました。そのかたから後日送られてきた感想です。

オルガニート、強く主張せずとも心の隅で心地よく鳴っていて、優しい音色が紙芝居の絵ととてもぴったりでした。聞こえる音もさることながら、穴のあいた紙に音が見える所も面白いと思いました。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

クラフトフェアなどに手作りの木工製品のお店を出しているかたから。

私は毎週のように全国どこかのイベントでオルガニートを回しています。その音色に誘われるように私のブースの前で足を止めるお客様がたくさんいらっしゃいます。ある時、一曲演奏し終わると同時に大きな拍手が聞こえてきました。見上げると 10 人くらいの人々が立ち止まって聞いていてくれました。そして、「奇麗な音ね」「癒されました」「涙が

出そうなほど感動した」という言葉もかけていただけました。信じてもらえないかもしれませんが、このような体験は、これまでに何度もあります。その時、私は「オルガニートは、魔法のオルゴールだ」と感じました。オルガニートは本当に素晴らしいオルゴールだとつくづく思っています。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

仕事が煮詰まったときや、疲れた夜に、お気に入りの曲をすごくゆっくり回して癒されています。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

＜編曲は楽しい＞

後に33弁オルガニートや中国製の30弁、15弁も出てきましたが、はじめは20弁オルガニートしかありませんでした。「弁」とは、はじいて音を出すオルゴールの音源で、鉄製の細い板のこと。20弁オルガニートは20個の音が出ます。

ドレミファソラシ ドレミファソラシ ドレミファソラ、これで20音。ハ長調の音階の音のみで♯やbの付いた音は出ません。ピアノで言うと、黒い鍵盤の音は出ません。また音域は２オクターブ６度でけっこう狭いです。

コンサートで「20個しか音が出ません、黒鍵の音は出ません」と説明すると、皆さんけっこう驚かれます。

もう一つ重要な制限があります。機械の性能上、同じ音の穴は7.5㎜以上離さないと２個目の穴は音が鳴らないのです。音符で言えば、まあまあアップテンポの曲では、同じ音を鳴らすとき４分音符以上離さないといけません。８分音符間隔で連続で鳴らすことはできないのです。同音近接の制限とでも言いましょう。同じ音が近い間隔で並んでいるときは、どちらかの音を省略したり他の音で代用します。

編曲の醍醐味は、上記のような制限をかいくぐりながら元の曲がそれっぽく聞こえるように工夫すること。出ない音があたかも鳴っていかのように聞こえさせるには、どのように音を配置したらいいか試行錯誤すること。“ごまかし”のテクニックの探求です。同音近接の制限を回避するのは音を使った“パズル”のようで楽しいです。

調子に乗ってごまかしまくっていたら、お客様から「ちょっと音がおかしいのですが・・・」と指摘を受けてしまったこともありましたけど。

曲が盛り上がる部分では音を増やして、静かに聴かせたい部分では音を減らして。更にオルガニートの音色を想像しながら、美しい響きになるよ

うに音の配置を考えます。原曲にはない飾りの音を加えることもあります。
その曲っぽく聴こえさせるのが難しい時は雰囲気やテンポをガラッと変えることもあります。

音のキャンバスを使ってパソコン上で試聴しながら編曲するのですが、曲カードを作って本物のオルガニートで演奏してみると、思っていたよりも素敵なものができることもよくあります。これが一番うれしい瞬間。初めて演奏してみるときはいつもワクワクします。

カルチャーセンターで「オルゴールの曲作り」講座をやっています。オルガニートの編曲を教える講座です。パソコンが苦手で、作曲用カードに印を付けて作っているかたがほとんどですが、完成して聴いてみると、やはり思っていたより良いものができることがしばしばあります。本人はイマイチと感じるときも、私や他の人の感想は好意的なことが多いです。それどころか妙に味があったりして感心してしまうくらいです。

他の人が編曲したものを聴くことが多々ありますが、実に楽しいですし勉強になります。こんなごまかし方があったのか、こんな伴奏の付け方は私の発想にはなかった、この音の配置は真似したい、この響きはどうやったら出るのだろう、などなど。
20個の音しかないのに、同じ曲でも編曲者が違うと千差万別、ずいぶん違うものができるのも面白いところです。

残念ながら20個の音ではどうにも足りなくて、頑張って作ってもその曲っぽく聴こえない部分がある場合は断念します。作り始めてから、うまくいかなくて保留にしてしまっている曲もかなりたくさんあります。
編曲を始めた頃に保留にした曲、経験を積んで、ごまかしのテクニックをいろいろ開発し、「まっ、これもありか」と寛大になり、数年たってから完成させたこともあります。

＜編曲は難しい？＞

「演奏するのは簡単でも、編曲は誰でもというわけにはいかないでしょ」とよく言われます。はい、そうかもしれません。でも、学校の音楽の授業で習うくらいの楽譜の知識があれば、楽譜を見ながらオルガニート用に編曲することはまあまあできます。

出ない音があるために編曲初心者にはハードルが高いかもしれません。楽器の演奏を長くやっているかたにとっても「この音ないし、この音も使えないのー」と、いやになっちゃうようです。

では“ある”もので何とかしよう、と考えるのはどうでしょうか。例えば、お料理をレシピを見ながら作る時、材料が揃っていなくて家にある食材でアレンジするのと似ているかもしれません。「この材料(音)ないから、これで代用してみよう」「この材料（音）なくても、まあいっかー」くらいのおおらかな気持ちで作るといいでしょう。
実際、ちょっとくらい音が抜けていても大勢に影響なし。編曲した本人は残念な編曲になっちゃったと思っていても、はたで聞いていて違和感がないことはとても多いです。

最初は編曲しやすい曲から始めるといいでしょう。楽譜のメロディ部分を確認して、オルガニートで出ない♯やbの付いた音が少ない曲、同じ音が続く部分が少ない曲を選ぶのがコツです。出ない音をどうごまかすかを考えなくていいので、格段に編曲のハードルが下がります。

けっこう重要なのが、楽譜選び。この曲を編曲したいと思ったら、楽譜を探しましょう。（耳コピーができる人はこの限りではありません）
ちまたには同じ曲でもいろいろな楽器用にアレンジされたもの、弾くときの難易度が示されているものなど、たくさんの楽譜があり手軽に入手で

きます。では、編曲初心者向けの楽譜選びのポイントです。

・ピアノ独奏用のもの（メロディと伴奏の両方がある）
・ハ長調の楽譜（オルガニートはハ長調が得意）
・初級または初中級のもの（音が少なすぎず多すぎず）
・歌の曲は歌詞が書いてあるもの（メロディが追いやすい）

楽譜を読むのがそんなに得意ではないかたへ、最近の曲はリズムがとても複雑で、楽譜にすると更に複雑に見えるので途方に暮れてしまうことがあります。楽譜に少し慣れてからチャレンジすることをお勧めします。

「間違えて穴をあけてしまった時はどうするのですか？」この質問、とても多いです。全く問題ありません。穴は裏からテープを貼って塞げばなかったことになります。

曲カードが完成してオルガニートで演奏してみたら、間違っていることに気づいたときも、この音は何だか違和感があるという場合も、穴を塞いで修正できます。

逆に、もっと音を増やしたいときは追加で穴をあけます。前奏を追加したくなったら前奏部分だけ作ってつなぎ合わせます。部分的に曲カードを修正することができるので、最初から作り直すことはほとんどありません。

間違えても失敗しても修正したくなっても、リカバリーが簡単にできるのはとてもありがたいです。

思うに、オルガニートの編曲は完璧主義の人には向いていないかもしれません。できないことがはっきりしていますから、ある程度の妥協と寛大さが必要です。その点私は、まったく完璧主義ではないのでよかったです。

オルガニートの編曲については、こちらで解説しています。
http://yasashiiorgel.jp/arrange.html

＜共演者との出会い、合奏は楽しい＞

近所の公園の野外ステージで行われた町の音楽祭（１グループ30分の持ち時間で、10グループ程が出演）に参加した時のこと。出演者の中に、自分で作詞作曲をしたシンプルで可愛らしい曲をピアノ弾き語りする女性がいました。地元のシンガーソングライターの“かなねり”さんです。この曲をオルガニートで伴奏したらピッタリだと思い、声を掛けました。楽譜をもらって伴奏用の曲カードを作り合わせてみたら、曲もかなねりさんの歌声も本当にピッタリ。かなねりさんもとても喜んで、一緒に演奏するようになりました。

ライブハウスに行ったとき、自分で作詞作曲をしたシンプルで可愛らしい曲をギター弾き語りする女性がいました。シンガーソングライターの“うーたん”さんです。この曲をオルガニートで伴奏したらピッタリだと思い、声を掛けました。音源とコード譜をもらって伴奏用の曲カードを作り合わせてみたら、曲もうーたんさんの歌声も本当にピッタリ。うーたんさんもとても喜んで、一緒に演奏するようになりました。

その後、かなねりさんとうーたんさんを会わせたら二人はすぐに仲良くなり、三人で子供向けに演奏するユニット“かうは”を結成しました。以前からオルガニートのやさしい音色を小さな子供たちにこそ聴かせたいと思っていたので、夢が叶いました。

かなねりさんとうーたんさんは絵も描きます。歌とギターとオルガニートと絵のほのぼのコンサートで、子供たちの笑顔を見るのが幸せな時間です。歌には歌詞があるので、音楽の世界が広がるのもいいですね。

アマチュアの口笛サークルがライブをやると知り、聴きに行きました。オルガニートで口笛の伴奏をしたら合うのではないかと直感したからです。

アマチュアとは言え、口笛でかなり広い音域が出ることに驚愕。終演後

に出演者に声を掛け自己紹介し、オルガニートを見せ、自主製作のＣＤを渡して売り込み。すると間もなく、彼らの次のコンサートに伴奏者として呼ばれました。初めて口笛と合奏しましたが、思ったとおりオルガニートとの相性はとてもいいと思いました。

口笛サークルのかたから、彼らの師匠であるプロ口笛奏者のコンサートの前座を頼まれ、オルガニートの説明をしながら数曲演奏。コンサートの後半になると特別ゲストが登場。その年の口笛世界コンクールで２位になった柴田晶子さんが２曲演奏しました。素晴らしい！！！！！ ぜひ一緒に演奏したい！！！ と思い、終演後に声を掛けました。柴田さんもオルガニートにとても興味を持ってくれて意気投合。翌月にはライブハウスで共演しました。その後もあちこちで共演し、二人で自主製作のＣＤを３枚作りました。

ちなみに柴田さんは世界コンクールで何度も優勝してプロの口笛奏者として活躍しています。

口笛奏者からすると、口笛とオルガニートは生の音で音量が合うのがいい。ピアノとの共演では音量で負けるのでマイクが必須になるそうです。

オルガニート奏者からすると、オルガニートは減衰音ですが口笛は持続音。また、歌もそうですが20弁オルガニートでは出ない♯や♭の音も口笛なら自由に出せるのが最大の魅力。主に口笛がメロディ、オルガニートが伴奏することで、オルガニートだけでは到底演奏できない曲も演奏できるようになり楽しさ倍増しました。

後に柴田さんの知り合いのピアニスト・長尾さんを含めた３人で演奏するようになりました。口笛とオルガニートでは高めの音だけでしたし、到底できない複雑なことを、多彩で音域の広いピアノが弾いてくれて、楽しさ更に倍増。ぐっと音楽の幅が広がりました。

３人で演奏し始めてから何年も経ってからようやく“ことりね”という

ユニット名を付けました。

柴田さんは自分でオルガニートを回しながら口笛を吹きます。かなねりさんもオルガニートを回しながら歌を歌う弾き語り（回し語り？）をしています。私もコンサートで下手な口笛を吹いたり、歌いながら回すことがあります。他にもオルガニート弾き語りをやっている人、けっこういるようです。

他に共演したことがある楽器は、三味線と箏、ライアー（小さな竪琴）、コンサーティーナ（アコーディオンの仲間）。ハーモニカやリコーダーとの合奏を聴いたことがあります。ハーモニカの音色もオルガニートととてもよく合います。

＜コンサートでのネタ＞

オルガニートは演奏しているときにほとんど体の動きがありません。手元がちょっと動いているだけ。曲のテンポに合わせて体を横や縦に動かしたり、曲の雰囲気で顔の表情を変えることはしますが、他の楽器の演奏はもっと動きがありますよね。羨ましいです。

オルガニート単独のコンサートは、見た目は地味ですし、音色が一つだけで音域も狭く演奏に変化が乏しいので、長く聴いているとお客様が退屈してしまうのではないか、ついつい心配になってしまいます。オルガニートだけで“聴かせる”ことに今一つ自信が持てないでいます。他のオルガニート奏者の演奏を聴くと、オルガニートだけでも充分に聴かせられると思うこともあるのですが。

というわけで、あれやこれやお客様を飽きさせないためにやっているネタ、お客様参加型の企画をご紹介します。

①オルガニートの説明

コンサートの最初にお客様にこんな質問をよくします。「皆さんはオルガニートって知っていますか？」と。ほとんどの人はオルガニートのことを知りません。興味を持ってもらいたくて演奏の合間にオルガニートの説明をします。

穴のあいた紙が楽譜の代わりになり、１台で何曲でも、どんな長さの曲でも。ハンドルを回すだけで誰でも簡単に演奏でき、自分でオリジナルの曲を作れる、とても便利な楽器。私はオルゴール演奏家と名乗っていますが、誰でもすぐにオルゴール演奏家になれます、など。あたかも実演販売のように。

幼稚園でコンサートをしたとき、「これなーんだ？」とオルガニート専用の穴あけパンチを見せたら、「爪切り」と答えた子がいました。なるほど、

確かに似ていますね。

②手袋人形

子供向けのコンサートの時には見た目を重視。「このオルゴールはハンドルを回すだけで誰でも音が鳴りますよ。今日は小さいお友達を連れてきているので回してもらいましょう」と言って手袋人形のうさぎを手にはめてハンドルを回します。うさぎさんに演奏してもらうのです。子供たちは楽しそうに見てくれます。

どんな手袋人形でもできるわけではないので要注意。腕（指を入れる部分）が短い人形はオルガニートのハンドルに届かないのでＮＧ。人形の左腕に親指、右腕に中指・薬指・小指の３本を入れるとしっかりハンドルを掴めるので、腕の細い人形もイマイチです。

YouTubeに動画があります。

https://www.youtube.com/watch?v=sI-jLA6IBVQ

③ぬいぐるみが動く

これも見た目重視で、子供に大人気。しかも手袋人形より簡単なのでお勧めです。

長い曲カードを演奏するときに、長机があれば端にオルガニートを置いて曲カードを机の反対の端まで伸ばしてぬいぐるみで重しにします。その状態で演奏すると、曲カードの上に乗ったぬいぐるみがオルガニートの方に動いてきます。となりのトトロを演奏する時にトトロのぬいぐるみを使うことが多いです。

ぬいぐるみがオルガニートに近づいてくると結末がどうなるのかハラハラ。結局オルガニートの高さを乗り越えられずに転がってしまいますが、それもけっこうウケます。

④出張サービス

オルガニートの説明をした後、お客様に近くで見ていただくためにオル

ガニートを持って演奏しながら客席を歩き回ります。大きめの会場でマイクを使って演奏する時は出張サービスを“生音チャレンジ”と呼んでいます。音量が小さくて遠くにいるときは聞こえにくいこともありますが、お客様は一生懸命耳を傾けてくださいます。近くに来ると興味深そうにオルガニートをのぞき込んで、微笑みかけてくださいます。

⑤演奏体験

お客様参加企画です。時間があるときはコンサートの中で、ないときはコンサートが終わった後に演奏体験コーナーを設けます。

子供たちのコンサートのではほぼ全員演奏したがるので長蛇の列ができます。大人の場合もコンサートが終わってから、または休憩時に演奏体験のお声掛けをすると、たくさんのかたが集まってきて、質問攻めにあうこともあります。曲カードのことを「昔のコンピューターのパンチカードみたい」と言った年配の男性がいました。

短い曲カードを何枚か用意していき、好きな曲を演奏してもらいます。ハンドルを回す手に力が入り過ぎている人、だんだん上手になる人、最初からスムーズに回せて曲の最後をゆっくりする人もいます。「意外と速く回すんですね」と言われることが多いです。

⑥逆演奏クイズ

曲カードはオルガニートに正しい向きに差し込まないとちゃんとした曲になりません。裏返したり、終わりから差し込んでも音が出ますが、知らない曲が流れます。

曲カードを裏返して終わりから差し込んで演奏すると、その曲が真後ろから流れます。裏返すだけで頭から差し込むと、音の高低が逆になった演奏になります。この場合リズムは正しい演奏と変わりません。

この逆演奏を聴いて曲を当てようというクイズです。超初級編では「かえるの合唱」、これは誰でも正解します。初級編では「猫ふんじゃった」、これもリズムが特徴的なので正解率が高いです。

YouTubeに動画があります。
https://www.youtube.com/watch?v=Eex6aK3EEbg

⑦リクエスト大会

選曲に困ったときには、多めの曲カードと曲目リスト、リクエストカードを用意して、開演前または休憩中にお客様にリクエストカードを書いていただきます。リクエストカードにはその曲にまつわるエピソードを書く欄もあります。コンサートではお客様のエピソードを紹介しながら演奏します。ラジオのリクエスト番組のように。素敵なエピソードに出会うことがあり、意外と盛り上がります。

⑧口笛吹くよ、打楽器もやるよ

音色の違うものが入ると変化が出ます。オルガニートを演奏しながら何かできないものか。右手でハンドルを回すので、他に使えるのは口と左手と足です。

「ではここで特別ゲストが登場します」と言いながら、オルガニートを回しながら急に口笛吹いてサプライズ。

クリスマス時期には、足に鈴を付けてクリスマスソングを演奏しながら鈴を鳴らします。左手に鈴を持って鳴らせればいいのですが、右手でハンドルを回しながらというのは非常に難しく、足にしました。

⑨みんなで歌いましょう

コンサートの最後はオルガニートの伴奏でみんなで歌うコーナー。誰でも知っている季節の童謡の中で、オルガニートで得意なハ長調で歌いやすい曲を選びます。歌詞カードを配ることが多いです。

春は「朧月夜」や「花（♪春のうららの隅田川）」、夏は「たなばたさま」や「夏の思い出」「うみ（♪海は広いな、秋は「赤とんぼ」「紅葉」「里の秋」、冬は「お正月」「雪（♪雪やこんこ）」「春よ来い」、オールシーズン使える「ふるさと」「浜辺の歌」も人気です。

＜オルガニートのワークショップ
　　～楽譜が読めなくてもできる曲カード作り～＞

　オルガニートの曲カードは紙でできています。専用の穴あけパンチで穴をあけるだけで音の鳴る曲カードを作ることができます。穴あけは少し力が必要なので小さい子はお手伝いしながらになりますが、小学生以上なら誰でもできます。

　ワークショップの参加者にはまずはオルガニートの演奏方法を教えて慣れてもらいます。事前にお知らせした開場時間になると参加者は徐々に集まってきます。開始時間まで暇なので、曲カードの差し込み方、ハンドルの回し方を教え、実際に演奏してもらいます。音楽が流れると「おっ、すげー」などの声が出ます。短い曲カードをたくさん持っていって、時間が来るまで曲カードを取り換えながら演奏して遊んでもらいます。

　では楽譜が読めなくてもできる曲カード作りの方法を３つご紹介します。

　一つ目は、オルガニートならではの「でたらめ作曲」。子供向けのワークショップでよくやります。
　縦横に線が引いてある作曲用のカードに自由に絵や文字（お花や動物の絵、自分の名前など）を描いて、その線に沿って穴をあけるだけ。ウソのような話ですが適当に穴をあけても、それなりにきれいな曲？ができあがります。いや、偶然とは思えないような素敵な曲ができることもあります。
　描いた線に沿って穴をあけてと説明しますが、絵を描かずに穴をあけてもいいです。絵を避けて穴をあける子、たくさんあけ過ぎてくり抜いてしまう子もいます。何でもありです。
　少し穴をあけたら試し演奏をします。慎重にハンドルを回して、最初の音が出た瞬間にとてもうれしそうな顔をする子がたくさんいます。
　少ない穴を噛みしめるようにゆっくり演奏する子、とにかくたくさん穴

をあけて迫力のある曲を作る子。ドビュッシーが作曲したみたいな曲できたことや、海の波やお魚を描いた子の作品は本当に海っぽいゆらゆらした感じの曲でした。それぞれ個性のある作品を聴くのがいつも楽しみです。

「でたらめ作曲」については、こちらで解説しています。
http://yasashiiorgel.jp/sakkyoku.html
YouTubeに動画があります。
https://www.youtube.com/watch?v=9W3jnSjRhPk

二つ目は、「カノンコード作曲」です。「カノン」はパッヘルベル作曲の超有名な曲のこと。「コード」は和音のことです。

パッヘルベルのカノンは、８つの和音の並び（コード進行と言います）の繰り返しでできています。①ドミソ→②ソシレ→③ラドミ→④ミソシ→⑤ファラド→⑥ドミソ→⑦ファラド→⑧ソシレ で、①のドミソに戻り繰り返されます。ほぼこのコード進行を使っているヒット曲がとてもたくさんあります。例えば、負けないで（ZARD)、TOMORROW（岡本真夜)、夢をあきらめないで（岡村孝子)、世界に一つだけの花（SMAP)、マリーゴールド（あいみょん）など。

このカノンコード進行を使って作曲をしようという試みです。

曲カードは、和音の構成音に色が付いています。１小節目はドとミとソの部分に色を付け、２小節目はソとシとレに・・・。

色の付いている部分にだけ適当に穴をあければカノンコードのそれっぽい曲ができるという仕組みです。狙ってか狙わずか、かなり素敵な作品ができることが多く、体験したかたはとても満足します。

曲カードのサンプルがあります。
http://yasashiiorgel.jp/image/canon_b.jpg

三つ目は「色分け曲カードに穴あけ」です。ちゃんと曲になるように穴位置の印を付けた曲カードに、印どおりに穴をあけてもらうもの。穴位置

の印は３～４色に色分けしてあります。

まずメロディの白い丸印に穴をあけて試し演奏。恐る恐るハンドルを回して、知っているメロディが流れると、皆さん笑顔になります。

次は低音の伴奏担当の赤丸。演奏するとメロディだけのときより厚みが出て、また嬉しい顔になります。その次は中音部の伴奏担当の青い丸。演奏すると更にゴージャスな響きになります。最後は飾りの音担当の黄色。かわいいキラキラした音が加わり完成。

徐々に音が重なり、音楽ができ上っていく過程を体験できる方法です。

YouTubeに動画があります。

https://www.youtube.com/watch?v=Eft63iP4wt4

＜ワークショップの悩み＞

曲カード作りの説明を終えて参加者が一斉に作業を始めると、完成までの時間にどうしても差ができてしまいます。とても早く完成してしまう人、作業が慎重で時間がかかってしまう人がいて、先に完成した人は暇になってしまいます。これが悩みでしたが、余った時間を活用する方法をいろいろ考えました。

①逆演奏してみよう。曲カードは裏返しても後ろから入れても音が出ます。１枚の曲カードで４パターンの違う演奏を楽しむことができます。特に「でたらめ」作曲のときは、どの方向から入れたのが一番好きか聞き比べてもらいます。
②音の鳴る仕組みを説明。多くのかたが知りたいと思うオルガニートの音の鳴る仕組みを個別に説明します。オルガニートを間近で、とある角度から見ると仕組みがわかりやすいのです。また、弾いて音が出る仕組が見えるように、いくつかの部品をはずしたメカも用意しています。
③「でたらめ作曲」と「カノンコード作曲」の場合は、作った作品の曲名を考えてもらいます。
④「色分け曲カードに穴あけ」の場合は、バージョンアップと称して穴を追加してもらいます。同じ曲カードで追加の穴の印が付いたものを渡して、これを見ながら自分で穴をあけた曲カードに追加の穴位置の印を付けて穴あけしてもらいます。でき上ると更にゴージャスな曲になります。自分で穴位置の印を付けるという一段階難しい作業が加わるので、やりがいがあって楽しそうです。

２つ目の悩みです。ワークショップで作った曲カードは持って帰ってもらいますが、オルガニート本体は安価ではないのでプレゼントできません。せっかく作った曲カードを家に帰ってから聴くことができないのはとても残念です。

そこで、いつもやっているのは発表会。全員が作り終わったら一人ひとり演奏して、動画を撮るようにお勧めしています。周りの皆さんには静かに聴いてもらうので、雑音なく録音できます。これなら今日のやったことを家に帰ってから思い返すことや家族に見せてあげることができます。

本当はオルガニートを皆さんに購入していただけるのがベストですが、そういう訳にもいきませんね。

＜子供はすごい！＞

ワークショップではたくさんの子供に出会いました。いつも子供たちの“慣れ”の速さ、発想の豊かさに驚かされます。

演奏でも穴あけでも、教えたことの飲み込みが早く、慣れるのもとても早いです。子供たちにとっては初めて見たオルガニート、ハンドルの回し方を教えると最初こそ恐る恐る回しますが、すぐに曲カードの差し込み方や回す速さなどコツを掴んで上手に演奏します。

穴あけパンチの使い方を教えると１分もすれば職人のようにすごい速さで、しかも正確にあけるようになる子がけっこういます。
小学校低学年以下の子は力が弱く穴あけに苦労するはずなのですが、教えたパンチの使い方とは違う力が入りやすい方法を自ら編み出し、かなり正確に穴をあけた子がいました。なるほど、そういう使い方もあるのかと感心しました。その後のワークショップでは、小さなお子さんには彼のやり方を頂戴して「こんなやり方もあるよ」と勧めしています。

ワークショップ開始前に短い曲カードで遊んでもらっているときや、作業が早く済んでしまった子は、突拍子もないことをやり出します。
曲カードを２枚重ねて差し込んで演奏する子がよくいます。どうなるのか試してみたい気持ちはよく分かります。私はやってみたことはありませんが（なぜなら曲カードに余計な穴ぼこがたくさんあいて使い物にならなくなってしまうから）たぶん２曲分の音が同時に鳴るでしょう。試した子は、思ったような面白い結果にはならないことがわかってか、曲カードに余計な穴ぼこがあいてしまったことで、何回もやることはありません。こちらとしては、ほっとしています。

お友達や兄弟で参加して“色分けカードに穴あけ”で同じ曲を作った子は、２人で一緒に鳴らして二重奏を試みることがあります。そもそも曲を同時にスタートさせることすら難しく、なかなかうまくいきません。いろいろな作戦を試行錯誤しながら何度もチャレンジしていました。２重奏は私もやったことがあるので、うまくいくコツをいくつか知っていますが、敢えて教えません。

お友達３人で参加した子、ひと通り作業が終わって暇になったところで、オルガニートをハンドルを手前にして３台きれいに並べ出しました。左端の子が少し長めの曲カードを普通にオルガニートの左側から差し込んで演奏し始めました。オルガニートの右側から出てきた曲カードを隣のオルガニートに差し込んで、隣の子にもハンドルを回すように促しました。２台目から出てきた曲カードを３台目にも差し込んで３人目もハンドルを回します。「直列３連演奏」です。３人で同じスピードで回さないと曲カードがたわんだり引っ張られたり、「もっと速く回して！」とか「ちょっと待って！」とか言い合いながら面白がって何回もやっていました。

鳴っている音を楽しむより同じスピードでハンドルを回すことに一生懸命。オルガニートが壊れることも曲カードが痛むこともたぶんないと思いますが、少しハラハラしながら見ていました。

この「直列演奏」すごく上手にやればパッヘルベルのカノンなどの輪唱の曲を１枚のカードで重奏できそうです。

＜曲カード年賀状＞

ハガキって、オルガニートの曲カードにちょうどいい厚さです。これで曲カードが作れないか、とふと思いました。2013 年の 11 月頃のことです。そうだ、年賀状を曲カードにして、オルガニート仲間やお仕事でお世話になっている人に送ろう！

ハガキの長辺の長さは 14.8cm。これに収まる４小節までの短い曲は･･･思い浮かばなかったので、2014 年の年賀状はでたらめ作曲のようなオリジナル曲にしました。

翌年 2015 年はひつじ年。「メリーさんのひつじ」これなら 4/4 拍子で４小節、ハガキに収まります。ワークショップ用に word を駆使して作った作曲用カードを応用して、年賀状をデザイン。印どおりに切って穴をあければ曲カードになる年賀状が完成しました。

「メリーさんのひつじ」曲カード年賀状の画像があります。

http://yasashiiorgel.jp/image/2015nyc.pdf

その後は毎年、干支にちなんだ動物の曲を年賀状にするのが恒例となりました。

ひつじ年：メリーさんのひつじ
さる年：お猿のかごや（最初の４小節）
とり年：はと（♪ぽっぽっぽ はとぽっぽ）
いぬ年：雪（後半の部分 ♪犬はよろこび庭駆けまわり･･･）
いのしし年：豚で妥協して、コブタヌキツネコ
ねずみ年：ミッキーマウスマーチ（最初の４小節）
うし年：ビゼー作曲 オペラ「カルメン」より 闘牛士の歌
とら年：男はつらいよ（寅さんの曲の前奏部分）
うさぎ年：喪中だったので作っていませんが、うさぎ（♪うさぎうさぎ何見てはねる）が使えそうです。

たつ年：かたつむり（ドラゴンボールや中日ドラゴンズの応援歌も思いつきましたが、家族に却下されました）

へび年：ヘビーローテーション

うま年：おんま（♪おんまはみんなパッパカ走る）

一番困ったのは、いのしし年です。たつ年、へび年も苦肉の策です。曲カード年賀状を作りだしてから 12 年、干支が一回りしました。２巡目に同じ曲は使いたくないので、毎年悩むことになるでしょう。どなたか、いい曲ありませんか、アイディアをください！！

＜極短曲カード＞

ハガキ曲カードは年賀状でなくても使えるのではないかと思いたちました。使い道ははっきりしていませんが「極短曲カード」または「極短チャレンジ」と呼んで、ハガキサイズに無理やり 4/4 拍子で８小節、2/4 拍子なら 16 小節を詰め込むこと、編曲としてはかなり難しいチャレンジを楽しんでいます。

メリットとしては、同音近接で鳴らせない音のごまかし方の勉強になります。ほんの８小節なので、すぐに編曲が完成します。持ち運び、保管にとても便利です。普通の曲カードは 50cm 以上の長さのものが多く、丸めて箱に入れています。かさばりますし、すぐに取り出せません。

デメリットは、演奏する時。通常の半分くらいの遅さ、かなりゆっくりハンドルを回さないとちょうどいいテンポの演奏になりません。ゆっくり安定して回すのは、それなりの速さで回すことに慣れてしまった人にとってはけっこう難しいのです。

ある日、演奏体験会に４歳のお子さんが来て極短の「ハッピーバースデー」を演奏してもらいました。まだ器用に手を使うことが難しく、とてもとてもゆっくりハンドルを回したのですが、これが功を奏しました。ちょうどいいテンポの演奏になったのです。体験したお子さんもお母さんも上手な演奏ができて喜んでいました。

とてもゆっくり回しても大丈夫な曲カード、何の役に立つかわりませんでしたが、小さいお子さんにだけでなくご年配のかたにもいいかもしれません。作り甲斐があります。

＜小さい音の効能＞

オルガニートファンのかたが言っていました。仕事をして疲れきっているときは、音圧の高い（音量の大きい）音楽を聴くとかえって疲れるから、オルゴールのように小さくてやさしい音がとっても癒される、と。

私も編曲が煮詰まってなかなかいいアイディアが浮かばない時、気分転換にオルガニートでお気に入りの曲を演奏します。アメリカ民謡の「オーラ・リー」（エルビスプレスリーの「ラブ・ミー・テンダー」の原曲）をものすごく遅いテンポで。時間がゆっくり流れる感じ、一つ一つの音が脳に沁み入る感じがします。

「やさしい音色の処方箋」（音楽療法士・高本恭子著　家の光教会出版）医療現場や教育現場で音楽療法を実践･研究しているかたの書いた本です。特に心を閉ざしている人に対する音楽療法の体験が書かれていて、音楽の持つ力の素晴らしさを改めて感じました。

いろいろな人、いろいろな状況で、その人の好きな歌や子供の頃によく歌っていた歌、共感できる歌詞の歌、ちょうどいいテンポの曲などを聴くことで、音楽が薬のような役目にもなるとのこと。曲の選択を間違えると逆効果になることも。

オルゴールのことにも少し触れています。オルゴールの澄んだ、やさしい音色は精神安定剤の役割をしてくれるので、せわしない社会の中で落ち着きを取り戻したいときなどにお勧め、だそうです。

ライアーという小さな竪琴と共演したことがあります。アニメ映画「千と千尋の神隠し」の主題歌「いつも何度でも」を歌う木村弓さんが伴奏に使っている楽器です。やわらかくて、やさしい音がします。

今までいろいろな楽器と競演してきましたが、オルガニートよりも音量の小さい楽器は始めてでした。敢えて小さい音しか出ないようにできてい

る楽器で、音楽療法や教育などにも使われているそうです。

様々な音が溢れている現代社会の中で、小さい音に耳を傾ける機会はどのくらいあるでしょうか。大きな音ばかり聴いていると、耳も聴覚をつかさどる脳の部分も鈍くなってしまうかもしれません。小さい音を注意深く聴くことは、何かしら良いことがありそうです。

大音量の迫力のある音楽の中に包まれるのもいいですが、小さいやさしい音をゆったり聴くのも素敵です。

昨今はいつでも自分の好きな音楽を手軽に聞くことができます。小さい音量で聞くこともできます。「オルガニートには効能があります」とは言えませんが、しいて言うなら生の音を聴くことができること、夜でもご近所迷惑にならずに鳴らせる音量の小ささ、その時の気分で曲のテンポを変えられることが利点でしょうか。

＜鳥の声を聴こう！＞

かなり脱線しますが、近所にいる鳥の鳴き声に耳を傾けるのも楽しいですし、脳にもきっといいでしょう。シジュウカラやメジロなどかわいい鳴き声の野鳥が、けっこうどこにでもいつでもいます。

家の中からでも聞こえます。声が聞こえると窓から外を見て、どこにいるか探します。姿が見えないこともありますが、近くの電線に発見した時は飛び去るまで眺めています。すぐに飛び去ってしまうこともありますし、数分そこにいることもあります。

朝早くに目が覚めてしまったとき、布団の中で外の音に注意を向けると、様々な鳥の鳴き声が聞こえてきます。その声を聴きながら二度寝します。

散歩をしているときには鳴き声のほうを見ると姿を見つけることがあります。足を止めてしばらく眺めます。春には梅や桜の木にメジロ（薄めの緑色で目の周りに白いふち取りのある小さい鳥）が２羽、「トゥイトゥイトゥイ」と小さな声で鳴いています。花の蜜を吸っているようです。秋には柿の木にメジロ。群れで「ケケケケ」とにぎやかです。メジロはいつも２羽以上でいます。

５月、庭の草取りをしていたら、「ツピチュッ！」と必至そうな鳴き声。頭上の電線にシジュウカラ（白黒で、ほっぺは白く腹の中心は縦に黒い筋の小さい鳥）が１羽いました。私のことを「警戒しろ」と誰かに伝えているようです。庭の木の中からは「ツィーツィーツィー」とシジュウカラの子供の鳴き声がします。見ると、親鳥が子供に餌を与えていました。

秋、私の住んでいる地域では10月末から11月初旬、柿の実がたわわに実る頃に「ヒッヒッヒッ」という鳴き声が聞こえてきます。ジョウビタキが渡ってきたのです。長めの尾をヒクヒク動かす姿がかわいいです。

同じ鳥でも様々な鳴き方をすること、その鳴き声に意味があることをテレビで見て以来、気を付けて聴いていると、本当にいろいろな鳴き方をしていて面白いです。

私が実際に聞いた鳴き声です。

シジュウカラは、ツツピツツピ、ピツツピツツ、ツピツピ、ピーピーキヨキヨピーピーキヨキヨ、ツツピペーツツピ、ツイケツイケ、ズーピズーピ、以上はたぶんさえずり、雄が縄張り主張や雌へアピールをしている声だと思います。同じ個体でもいろいろなパターンのさえずりをします。

チーチーチー、ピーピーピー（とても高い声）、ツピチュ、ピーツピ、以上は「警戒せよ」と言っているのではないかと思います。ピーピーピーの声がした瞬間にその辺にいたシジュウカラが木の中に隠れたのを目撃したことがあります。カラスが飛んで来ていました。

その他には、チュチュチュチュ、ジュジュジュジュ、チチジュジュジュ、ツイ（小声）、ツーツーキョ、ツツキゥ、ツッキキ、ツチーチョ、ケシュケシュ、他、カタカナで表せない声がいろいろ。ハスキーボイスだったり、澄んだきれいな声だったり。

メジロは、チーウ（高い声で大声と小声がある）、ケケケケケ（群れているとき）、トィトィトィ（小声）。春は大きくて美しい声のカタカナでは表せない複雑なさえずりが朝早くから聞こえます。体長12㎝くらいの小さな鳥なのに、びっくりするくらい大きな声です。

野鳥にオルガニートを聞かせたらどんな反応をするだろう、と思ったことがありますが実践はしていません。「なんか変なヤツが縄張りに入ってきた」と勘違いされそうなので。いや、私が近寄っただけで逃げてしまうでしょう。

＜オルガニート愛好会＞

ホームページを作ってオルガニート情報を載せたり、曲カードの販売をしていると時々、「こんなの作りました」と録音や写真を送ってくださるかたがいます。お困りごとについて質問をされることもあります。
オルガニートは大勢で一緒に演奏したり、他の楽器と合奏するのはかなり難しいので、多くの愛好家は一人で活動していて、いろいろ困っていることがあるようです。

そこで一度、みんなで集まってみようと思い立ち、都心の公共施設の部屋を予約しました。約70人のオルガニート愛好家（曲カードをたくさん買ってくださったお客様や、ご質問をいただいたかたなど）に声を掛けたところ、26人が集まりました。2015年10月の事です。遠くは広島から、年齢は小学生から70代まで。
自己紹介の後は作品披露をしました。自分で編曲した作品を演奏する人、素敵な箱を作ってきた人、もちろん、皆さんの作品を聴くだけの人もいました。お困り事の相談をする人、そのお困り事をその場で解決してしまう人など。目からウロコの情報が飛びかって予想していた何倍も盛り上がりました。
そして、今後も続けようということになり「手回しオルゴール愛好会」、後にオルガニートを製造している当時の日本電産サンキョーさんに名称の使用許可を得て「オルガニート愛好会」が誕生しました。

主な活動は２，３か月に１回、首都圏のあちこちで集まりを開催することと、SNSでの情報交換です。特に入会届や入会金、年会費などなく、とてもゆるい会です。

メンバーにはいろいろな分野に精通している人、いろいろな特技を持っている人がいます。音楽、音響、木工、金属加工、電子工作、ITなどの専

門家。刃物を研ぐのが上手、蜂の巣を駆除するのが得意、ピザ窯を作ってしまう人など。各々の特技を生かして教えあってオルガニートライフが充実していっています。

ワークショップの依頼を受けた時には、オルガニート愛好会にお手伝い要員の募集をかければすぐに集まります。木工が趣味のメンバー同士が仲良しになって一緒に物作りをしたり、作業小屋を建ててしまったり、群馬県のメンバーが作った箱を広島県のメンバーが買って愛用していたり、「こんな物があると便利なんだけどー」と言うと次の会合の時には作って来てくれる人がいたり、壊れたオルガニートを修理してくれたり、有志で各地のオルゴール館めぐりをしたり、オルガニート生演奏付きのバーベキュー大会をしたり。

メンバーにはオルガニートを使った様々な活動をしている人がいます。

・朗読のBGMや読み聞かせの合間に
・定期的に老人ホームや保育園でコンサート
・定期的にホスピスや病院で枕元演奏
・認知症カフェで演奏
・会社の昼休みに演奏
・毎晩、眠れない家族のために演奏

集まりの時のプログラムは、①自己紹介 ②作品披露 ③特集テーマ ④活動報告・告知 です。

毎回、気になっていることを特集テーマにして探求しています。これまでのテーマを紹介します。

・上手な演奏のコツ
　ハンドルのスムーズな回し方のコツ、気持ちの入れ方、呼吸の仕方
・共鳴台お試し大会
　オルガニートの音の響きを良くするための台を持ち寄ってお試し

・曲カード穴あけのコツ
　穴あけパンチの使い方のコツ、他の穴あけ道具について
・曲カードの巻取り問題
　演奏しているとき、オルガニートから出てきた曲カードをうまく巻き取るには
・曲カードの収納、管理方法
　たくさんの曲カードをどのように収納するか、聴きたい曲カードをすぐに取り出せるように管理する工夫
・ちょっとしたメンテナンス講座
　ノイズが増えてきてしまったときの対処法など
・ビジュアル
　音だけでなく見た目も楽しむアイディア
・オルガニートの合奏
　複数のオルガニートで合奏するコツ
・編曲聞き比べ
　課題曲を決めて各自が編曲してきたものを聞き比べ
・どんなきっかけで、どんな活動を始めましたか？
・編曲の基礎
・コンサートでウケるトーク

そして、集まりの後には必ず２次会があります。近くの飲み屋かファミレスに行って、飲み食いしながら更にディープな話で盛り上がります。

2025年10月には、オルガニート愛好会誕生10周年記念発表会を開催しました。都内のとても響きのいい小さなコンサートホールを借りて、22名が演奏しました。各自が持ってきたオルガニートのバラエティに富んだ音色と、様々なジャンルの音楽が約３時間、生のオルガニートの音がホールに響き、飽きることなく楽しみました。